

# かほだより

## 暑さ対策始めてますか？

この夏の天気は？ ～～気象庁の3か月予報〔関東甲信越〕～～

平均気温 6月	平均気温 7月	平均気温 8月
低20 並40 高40% 平年並みか高い 見込み	低30 並30 高40% ほぼ平年並み の見込み	低20 並30 高50% 高い 見込み

夏本番を迎える前に対策を進めましょう。

### 畜舎外の対策

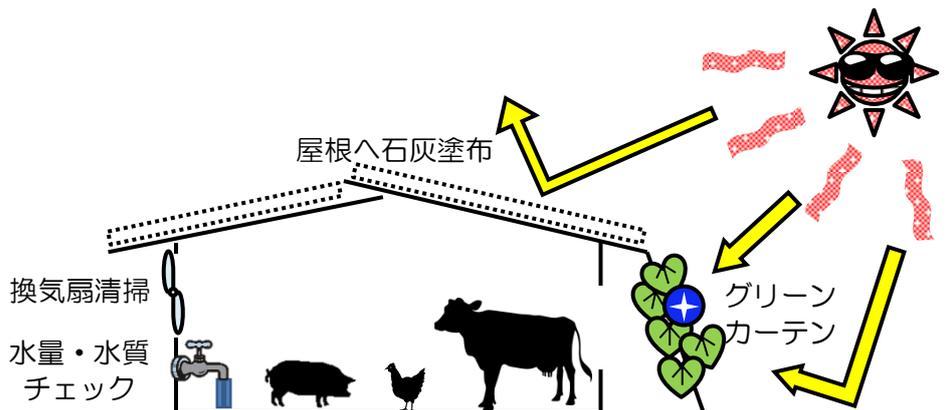
- ・ 南側、東西の窓によしずや寒冷紗、グリーンカーテン(つる植物)を設置し、畜舎内に日が差し込まないようにする。地面からの反射熱も防げる。
- ・ 屋根へは石灰を塗布する。(100平米あたりドロマイト石灰50kg、石灰50kgに対し水100L。石灰塗布器を貸出可能です。早めに申し込んでください。)

### 畜舎内の対策

- ・ 換気扇や扇風機で送風
- ・ 細霧装置などを使用して水分を散布(湿度の高い日や畜舎内に風がない時は不可)

### 家畜への対策

- ・ 飼養密度を下げる
- ・ 毛刈り(牛：首から肩にかけて。初産牛は胴体全体。)
- ・ 冷たい水が十分飲めるようにする(給水管の大径化、ウォーターカップ<sup>®</sup>やニップルの流量確認と清掃、水圧が足りない場合は貯留タンクの設置等)
- ・ 涼しい時間に飼料給与(夕方から夜間に)
- ・ 良質な飼料を給与して食欲低下を抑える
- ・ 飼槽を補修・清掃し、腐敗臭がしないようにする



# 夏場の乳成分の低下はルーメンアシドーシスの徴候です！

## 牛を観察して早めの予防策をとみましょう！！

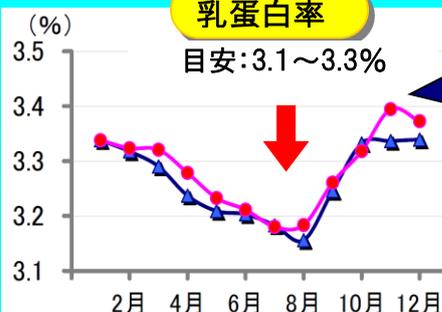
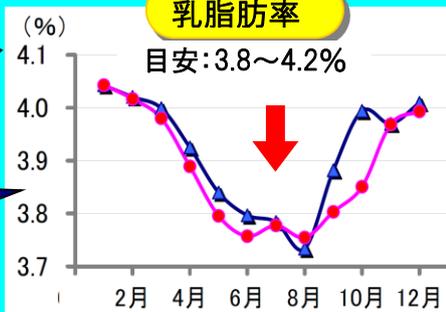
「暑い時はエサ食いが悪いのはあたりまえ」など見過ごしていませんか？

暑熱ストレスによる食欲の低下（特にセンイの摂取不足）が潜在的ルーメンアシドーシス（SARA）\*を起す可能性があります。SARAは乳質・乳量の低下やアルコール不安定乳の発生、乳房炎、蹄病、繁殖性の低下など生産性に大きく影響します。

**\*ルーメンアシドーシス(SARA):濃厚飼料の相対的な増加等により第一胃(ルーメン)内の異常発酵でpHが断続的に低下し様々な障害が発生します。**

3.5%以下は SARA の疑いも。急激な落ち込みに注意！

夏場は 3.8%を下回っている。

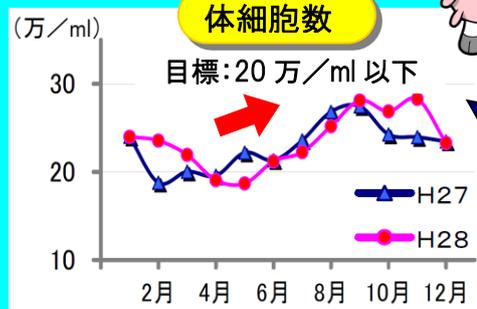


乾物摂取量の不足、エネルギーの不足で低下



潜在的ルーメンアシドーシス（SARA）ではエサが未消化のままルーメン（第一胃）を通過するため、乳成分が低下します。一見問題がないようでも、SARAでは必ず牛の様子に変化が表れます。

- 弱い反芻、咀嚼回数の減少
- 起立時間の延長、蹄冠の腫れ、跛行
- 軟便、未消化物(コーン等)が便に混じる
- 固め食い、ムラ食い



乳房炎の増加

### 夏場の飼養管理のポイント

- ◎ 嗜好性と消化性の良い高品質な粗飼料の給与、ビートパルプ等のセンイ飼料の増給
- ◎ 変敗サイレージは給与しない（肝機能や第一胃の微生物にダメージ）
- ◎ 飼槽とウォーターカップの衛生的な管理
- ◎ ビタミン・ミネラルの増給（1.5倍）、生菌剤、重曹の給与（200g/日程度）  
※低Ca防止のため乾乳牛へは重曹を給与しない
- ◎ 乳房炎の早期発見・治療⇒搾乳時の前搾りで要確認！（PLテストの励行）  
※特に大腸菌性乳房炎に要注意



### 乳牛の暑熱ストレスのチェック法

- ① 8～10頭の牛をそれぞれ約30秒、脇腹の動きを見て呼吸数を数える。
- ② それを2倍して、1分あたりの呼吸数を求める。
- ③ もし「50回/分以上」ならばその牛群は暑熱ストレス下にあります。



（全酪連 酪農セミナー2011「21世紀の乳牛に対する飼料給与」より）

### ～バルク乳検査（酪農生産性向上対策事業）の実施について～

長野県では今年も生産者団体と協力して、年2回、バルク乳の細菌等の検査を実施します（検査料2,430円/戸）。

バルク乳検査によって、伝染性乳房炎原因菌の有無や、搾乳衛生の状態を把握できます。

#### <1回目の採材日程>

- 6月中旬～ 南信酪農
- 6月下旬～ JA大北, JAあづみ, JA松本ハイランド, JA塩尻市, JA木曾, その他の酪農家

※採材・検査へのご協力をお願いします。